

東芝キャリア(株)掛川開発センター サイトレポート情報

所在地：静岡県菊川市加茂1300-3

敷地面積：88,277㎡、建家面積：5,514㎡、緑化率 26.3%

設立：1991年3月、従業員：61人（2022年7月1日現在）

主要製品：大形空調機器、熱源機（研究・開発）

ISO14001認証取得：2007年2月、
最新更新年月：2022年5月（ISO認証番号：EC10J0010）



ごあいさつ

掛川開発センターは、緑豊かな自然に恵まれた環境にあり、各種建物の省エネ空調だけでなく、データセンターなどの対物温度調節、工場での生産プロセス温度管理まで、多種多様な用途に利用できるチリングユニットやパッケージエアコンの商品開発を通じた熱源ソリューションを提供しています。

製品の更なる省エネ化及び省資源化を図り、環境調和型製品創出を通じて、脱炭素社会・循環型社会の実現に貢献していきたいと考えています。

環境保全責任者：（センター長）立石 章夫



2021年度の環境の主な取組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

- ・2007年2月に津山工場のサイト拡大として認証取得、2010年4月に独立審査受審
最新更新日：2022年5月17日 認証継続中

☆エネルギー起源CO₂排出量の削減

- ・CO₂排出削減量：69.8 t-CO₂/年
- ・ボイラーレス化、排熱回収システム等導入による、低環境負荷開発試験設備を構築
- ・老朽蒸気配管の改修 ・試験設備制御ソフトウェア改善など

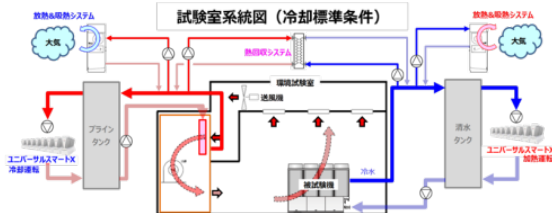
☆廃棄物の削減

- ・総発生量（有価物含む）：45.2t（対目標 57.1%）
- ・低最終処分率の継続（0.008%）

☆化学物質排出量の削減

- ・'16年度にボイラー燃料転換（A重油→LPG）による第一種指定化学物質排出量ゼロ化達成、以降継続
- ・試験設備更新に併せて、ボイラーレス化を順次展開（取扱量も削減）

環境配慮型ボイラーレス大形冷凍空調機試験室



製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

1 冷媒漏えい検知システム対応 (特注)

GL-17に準拠したフロン漏えい常時監視検知システム対応をチャラー業界初で開始。（当社調べ）

2 モデル拡充

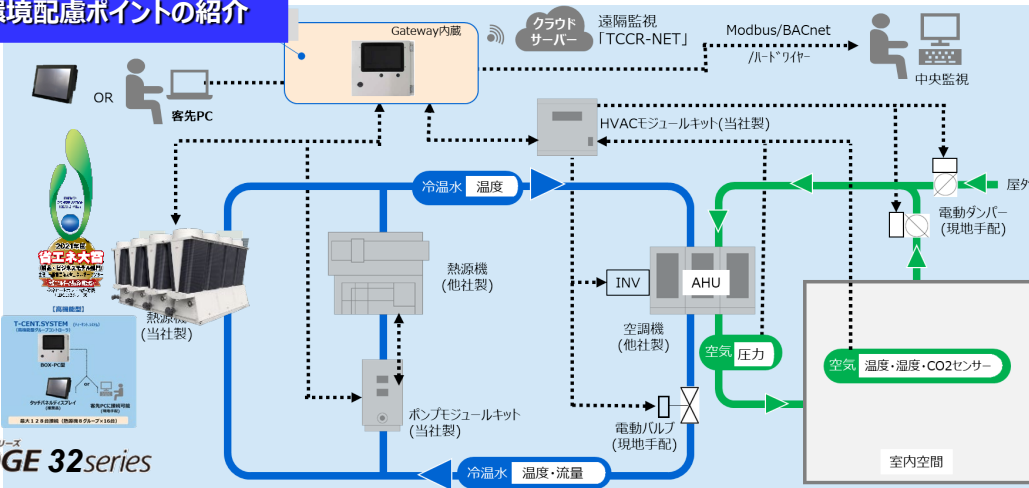
・業界最大級「80馬力」チャラーが新登場
・データセンター向け冷専機が新登場
・EDGE32 60馬力 高圧ガス保安法(2種)の「漏出不要化モデル」新登場

3 多様な制御範囲に対応 新型コントローラ

制御範囲・機能共に大幅向上させた「T-CENT.SYSTEM (高機能GC)」が登場。機能を絞り機能幅を可能にした「グループプリコン (30W/4HGC)」も同時リリース。

空冷ヒートポンプ式熱源機 エッジシリーズ
ユニバーサルスマートX **EDGE 32series**
AIREDGE HEATEDGE POWEREDGE

+ T-CENT.SYSTEM



低GWP冷媒&高効率熱源機+新コントロールシステムで、セントラル空調に省エネと新たな価値を！

様式 5.2

環境方針

東芝キャリア株式会社 掛川開発センターは、業務用大形冷凍空調機器の開発拠点として、環境調和型製品を社会へ提供すること、環境負荷低減に配慮した事業活動等を通じて社会に貢献することをめざします。

そして、環境への取り組みを企業経営の最重要課題の一つとして位置づけ、「東芝グループ理念体系」のもと、人と、地球の、明日のために豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会をめざした環境経営により、持続可能な社会の実現に貢献し、新しい未来を始動させます。

●事業と調和させた環境経営を推進します

- ① 事業活動、製品・サービスに関わる環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減に向けた環境目標を設定して、環境活動を推進します。
- ② 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図ります。
- ③ 環境に関する法令、当社が同意した業界の指針および自主基準などを遵守します。
- ④ 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。
- ⑤ グローバル企業として、東芝グループ一体となった環境活動を推進します。

●事業活動での環境負荷低減と環境調和型製品・サービスを提供します

- ① 地球資源の有限性を認識し、事業活動、製品・サービスの両面から有効な利用、活用を促進する積極的な環境施策を展開します。
- ② 製品のライフサイクルを通じて環境負荷の低減に寄与する環境調和型製品・サービスを提供します。
- ③ 設計、調達、製造、物流、販売、廃棄などすべての活動段階において、気候変動への対応、資源の有効活用、化学物質の管理などの環境負荷低減に向けた施策に取り組みます。
- ④ 持続可能な社会の実現のため、社会に与える価値や意義を考え、将来を見据えた環境技術の開発に努めます。

●ステークホルダーとの連携を図ります

- ① 地域・社会をはじめとするさまざまなステークホルダーとの積極的なコミュニケーションを図り、連携した環境活動を推進します。

令和 4 年 4 月 1 日

東芝キャリア株式会社 掛川開発センター

センター長 立石 章夫

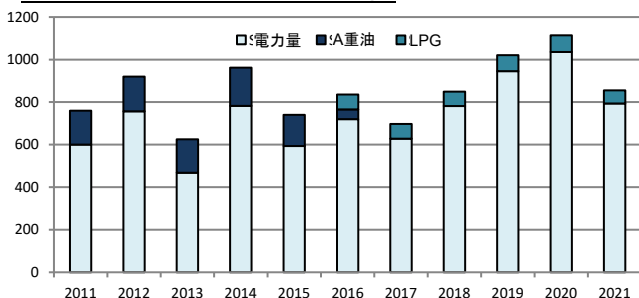


環境目標

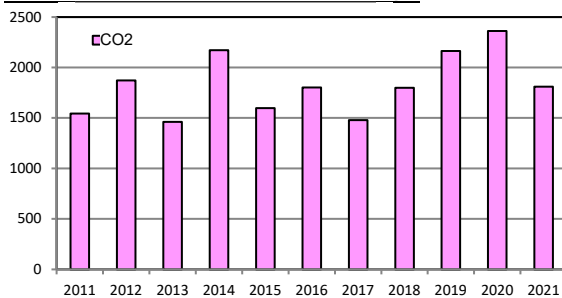
推進項目		単位	2022年度	2023年度	2024年度
気候変動への対応	エネルギー起源CO2排出量	t-CO2	1,768	1,636	1,521
	温室効果ガス（エネルギー起源以外）排出量	t-CO2	220	220	149
循環経済への対応	廃棄物総発生量	t	37.6	37.4	37.1
	廃棄物量（有価物を除いた量）	t	11.4	9.3	9.3
	水投入量	千m3	7.3	7.3	7.2
生態系への配慮	化学物質取扱量	t	3.4	3.3	3.3
	化学物質排出量	t	0.0	0.0	0.0
	生物多様性の保全	-	指標の継続的観測、および保護		

環境負荷データ

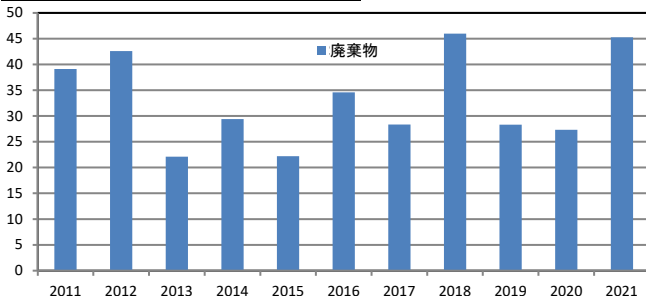
エネルギー使用量（単位：KL）



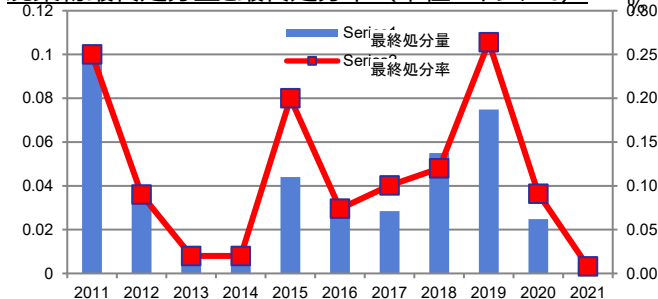
CO2排出量（単位：トン-CO2）



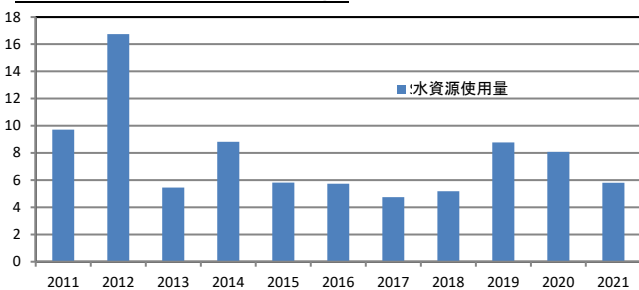
廃棄物総発生量（単位：トン）



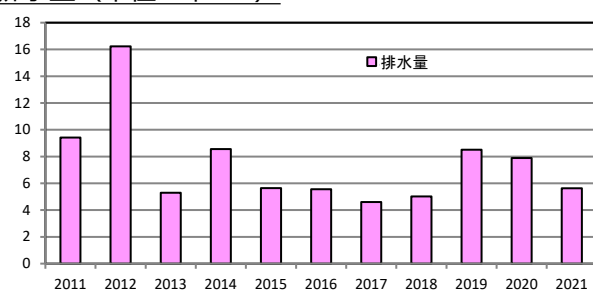
廃棄物最終処分量と最終処分率（単位：トン、%）



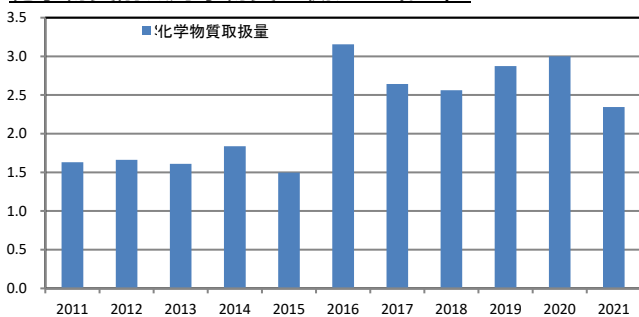
水の使用量（単位：千m3）



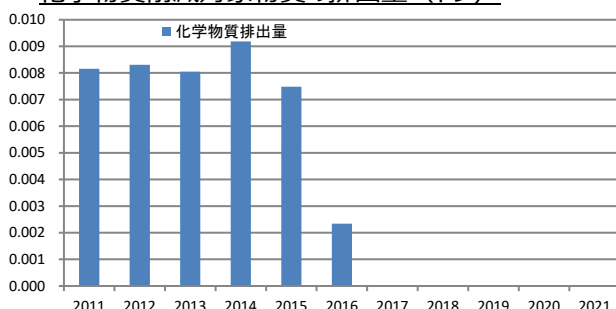
排水量（単位：千m3）



化学物質削減対象物質の取扱量（トン）



化学物質削減対象物質の排出量（トン）



遵法管理状況

<大気測定結果> 小型貫流ボイラ 2基：法的測定義務なし（水管ボイラ 2基：2016年8月廃止）

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx (ppm)	—	—	—	—
SOx (Nm ³ /h)	—	—	—	—
ばいじん (g/Nm ³)	—	—	—	—

<排水測定結果> 測定日:2021-11-18 合併浄化槽:1施設 河川（西方川－菊川）へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度 ※3
水素イオン濃度(pH)	5.8～8.6	6.1～8.5	7.8	1回/年（連続計測）
BOD (mg/ℓ)	120/160 ※2	15	6.9	1回/年
COD (mg/ℓ)	120/160 ※2	15	13	1回/年
SS (mg/ℓ)	150/200 ※2	15	10	1回/年
亜鉛(mg/ℓ)	5	2	0.1未満	1回/年
大腸菌群数 (個/cm ³)	3,000	3,000	420	1回/年
カルバミン抽出物 (mg/ℓ)	5	1.5	0.5未満	1回/年

※2：日間平均/日間最大（静岡県条例） ※3：外部計量機関による頻度（ ）内は社内測定頻度

<騒音・振動測定結果> 特定施設（騒音 20施設：送風機18、切断機(砥石)2）（振動 0施設）
測定日：2022-3-25（騒音）/ 2010-4-10（振動）

	測定場所：時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音 (dB)	敷地境界：昼間	70	67	45.2	適宜
	敷地境界：朝・夕	65	62	53.7	適宜
	敷地境界：夜間	60	57	49.8	適宜
振動 (dB)	敷地境界：昼間	70	65	30未満	適宜
	敷地境界：夜間	65	60	30未満	適宜

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

環境コミュニケーションの紹介

<ライトダウンキャンペーン>

以前、環境省主導で実施されていたライトダウンキャンペーンを継続実施しています。また、各家庭で、任意に時間を決め、ライトダウンの実施と逼迫する電力等、節電・省エネに関する家族との語らいの場を持つようになっています。

(実施概要)

- ・実施時期：2021年7月7日
- ・活動場所：東芝キャリア（株）掛川開発センター＆各家庭
- ・参加人数：約60名

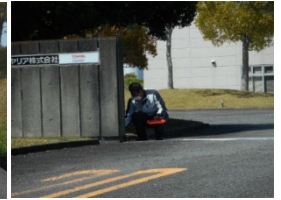


<事業場周辺の清掃活動>

毎月10日を「トーシバデー」として、昼休みの時間帯に掛川センター周辺道路の清掃活動を行っています。

(実施概要)

- ・実施時期：毎月10日
- ・活動場所：東芝キャリア（株）掛川開発センター周辺
- ・参加人数：約60名



<緑の募金活動>

事業場各フロアへ募金箱を設置し、『緑の募金』活動へ参画をしています。集まったお金は、県民参加の森づくり、学校林の活用推進、緑の少年団育成等、郷土の森林づくり、緑化推進に活かされています。

(実施概要)

- ・実施時期：随時（春期、秋期／年2回）
- ・活動場所：東芝キャリア（株）掛川開発センター内
- ・参加人数：約60名



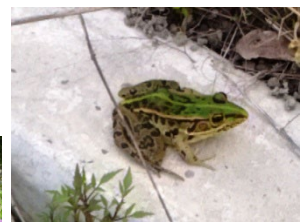
生物多様性の保全への取り組み

<掛川開発センターの生物多様性保全への取り組み>

敷地内太陽光発電施設着工前と竣工後に外部専門家による事業場敷地内の生態系調査を実施しました。ここで、従業員が知らなかった多くの動植物の生息が明らかとなり、その中で準絶滅危惧種である①紫蘭、②トノサマガエルを指標に、保護しています。2021年度は、トノサマガエルのオタマジャクシ保護を目的とし、産卵場所である事業場敷地内にある池・水槽に、水の干上がり防止するための日除けを設置しました。

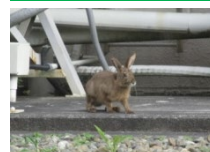


指標①：
シラン（草木類）
環境省レッドリスト
準絶滅危惧（NT）



指標②：
トノサマガエル（両生類）
環境省レッドリスト
準絶滅危惧（NT）

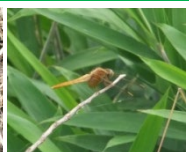
その他 掛川開発センターの動植物たち



野ウサギ



カブトムシ



各種トンボ



サクラ



タカサゴユリ



キツネ